

## 令和7年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状を踏まえ、今年度は二つの項目について重点課題、目標を設定し、取り組んだ。各重点課題の評価は次のとおりである。

#### (1) その他「保護者と教員がより連携するPTA活動の取組」

①保護者と児童生徒と一緒に参加する活動として、「ユニバーサル野球」「校内ピカピカ週間」「校内写真展」などを実施した。②保護者が時間に縛られずに取り組める活動として「ベルマーク運動」を場所や時間の設定を工夫し「ベルマークサロン」としたことで保護者同士の交流の場となった。③取り組んだことが形に残る活動としてPTA広報誌「コシコシタイムズ」を年2回発行した。役員以外の保護者や教員も川柳やクイズ等に応募し、協力して広報誌を作成できた。

これらの活動を、計8回実施した。保護者の意見を取り入れ参加方法を工夫したことで、保護者のPTA活動への関心は高まり、参加する保護者は昨年より増え十分な成果が見られた。

#### (2) 進路支援「進路指導・支援の取組」

児童生徒、保護者・教員それぞれを対象に回数目標を立て学習会等の実施に取り組んだ。具体的には、各学部の進路学習後に下学年児童生徒に対して行う報告会。就労継続支援事業所職員から就労に必要な力等について聞く学習会。保護者と教員を対象に、施設職員から障害福祉サービスの現状について聞く学習会。当事者の方から障害者の社会参加について聞く学習会。教員に向けた学習会。他に今年度は生活介護事業所や入所施設の見学も行った。

これらの取組を通し、児童生徒は報告会や学習会に意欲的に参加し、発表を通して自信をもったり、新たな課題を見つけたりできた。保護者や教員は障害福祉サービスの理解を深め、児童生徒の卒業後の姿をイメージし、それらを担任と共有して日頃の指導・支援につなぐことができた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 積極的に参加する保護者は増えたが、固定化する傾向がある。保護者同士が交流を深めたり、保護者と教員が連携したりして無理なく継続できるPTA活動となるよう、保護者と意見交換しながら、活動内容を工夫し続ける。
- (2) 情報をより早く分かりやすく提供するための工夫と共に、保護者同士が情報交換できる場としての施設見学や研修の企画などをPTA活動の活性化と合わせて検討していく。

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和7年度高志支援学校アクションプラン		- 1 -
重点項目	その他 ー総務部ー	
重点課題	保護者と教員がより連携するPTA活動の取組	
現 状	<p>本校のPTA活動は、各PTA連絡協議会や研究大会等への参加、福祉施設見学、校舎の窓ふき等の奉仕活動、児童生徒へのお楽しみプレゼント企画等を実施している。しかし、児童生徒数の減少、働く保護者の増加、児童生徒の障害の重度重複化に伴い、年々PTA活動に積極的に参加・協力する人数が減りつつある。また、役員を任されることや行事に参加することに負担を感じている保護者が少なくない現状である。</p> <p>そこで①保護者と児童生徒が一緒に参加する活動。②保護者が時間に縛られず取り組める活動。③取り組んだことが形に残る活動。を保護者と教員がともに推進することで、PTA活動が活性化し「PTA活動をやってよかった。」と実感できることを期待したい。</p>	
達成目標	・保護者と教師が協力して実施する活動の回数	3回以上
	・2回以上のPTA活動に参加した保護者の割合	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・PTA役員で、上記の①～③が実現できる活動について提案・協議・検討する。</li><li>・各活動について、PTA役員と教員が連携を取りながら進める。</li><li>・参加を促すPRチラシやポスターを作成したり、会員同士の声の掛け合いを啓発したりする。</li><li>・各活動実施後、アンケート等で意見や感想を集め、次の活動に生かす。</li></ul> <p>【活動案】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① &lt;保護者と児童生徒が一緒に参加する活動&gt; 「ユニバーサル野球」「校内ピカピカ週間」「校内写真展」など</li><li>② &lt;保護者が時間に縛られず取り組める活動&gt; 「ベルマーク運動」</li><li>③ &lt;取り組んだことが形に残る活動&gt; PTA広報誌を作成し、「富山県小・中学校PTA広報誌コンクール」に応募。</li></ul>	
達成度	・保護者と教師が協力して実施する活動の回数	8回
	・2回以上のPTA活動に参加した保護者の割合	60%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>①他の分掌と連携して、活動内容を見直し、保護者・児童生徒・教員が共通の目的をもって取り組めるように企画をした。どの行事にも約6割の保護者が参加した。</li><li>②毎月の回収日に多数のベルマークが提出された。「ベルマークサロン」の日や、訓練や下校までの待ち時間等にも、数名の参加が見られ、保護者同士の交流の場となった。</li><li>③PTA広報誌「コシコシタイムズ」を年2回発行した。「みんなの広場」には、PTA役員以外の保護者や教員の川柳やクイズ等が多く応募され、協力して広報誌を作成できた。</li></ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・①～③の活動を、計8回実施した。</li><li>・参加に関して、達成目標の70%には届かなかったが、PTA役員と連携し参加を積極的に呼び掛け、保護者の意見を取り入れ参加方法を工夫したことで、保護者のPTA活動への関心は高まり、参加する保護者は昨年より増え十分な成果が見られた。</li></ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・いずれの取組も、単なる活動を超えて保護者間の貴重な交流・親睦の場になってよかった。また、保護者の実体験を伴うPTA主催の防災研修も有意義な取組である。継続には工夫が必要であるが、今後のさらなる発展に期待する。</li></ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度は、PTA役員を中心に、参加・協力しやすいPTA活動になるように、様々な意見が集まり、PTA役員業務内容や会則等も見直した。積極的に参加する保護者は増えたが、参加協力する保護者が固定化する傾向にあり、今後も、保護者同士が交流を深めたり、保護者と教員が連携したりして取り組むPTA活動となるよう、保護者と意見交換しながら、活動内容を工夫し続ける必要がある。</li></ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度高志支援学校アクションプラン —2—		
重点項目	進路支援 —進路指導部—	
重点課題	進路指導・支援の取組	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の児童生徒は、小・中・高等学校に準ずる教育課程から自立活動を主とする教育課程と実態差は大きく、進路希望状況も様々である。児童生徒のキャリア教育、進路指導を充実させ、児童生徒及び保護者の幅広いニーズに応えるため、様々な情報提供を行っていく必要がある。</li> <li>本校では、これまで進路指導の推進については高等部を中心に行っているが、早い段階から将来を見据えてキャリア教育を推進していくことが求められており、小学部で「12歳のチャレンジ」、中学部で「職場体験」を行っている。</li> <li>個々が必要としている情報を児童生徒や保護者と共有していくために、教員のキャリア教育や障害福祉サービス等進路に関する知識を高めていく必要がある。</li> </ul>	
達成目標	進路に関する学習会等の実施	児童生徒 年3回 保護者・教員 年4回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路相談や進路希望調査等を通して、児童生徒及び保護者、教員が必要としている情報を積極的に聞き取り、質問に対する回答を行ったり、学習会の内容設定の参考にしたりする。</li> <li>児童生徒を取り巻く福祉や社会の現状、キャリア教育の取組等を知るための学習会を開催し、保護者、教員に参加を呼び掛ける。また、学習会の内容を進路だよりに掲載し、理解・啓発に努める。</li> <li>小学部「12歳のチャレンジ」、中学部「職場体験」の取組について、各学部において下学年児童生徒に対して報告する機会を設定する。</li> <li>就労（福祉就労を含む）を希望する生徒に対して、障害福祉サービスの概要や就労に必要な力等について知る機会を設定する。</li> <li>学習会後にアンケートを実施し、感想や次年度への要望等を把握する。</li> </ul>	
達 成 度	進路に関する学習会等の実施	児童生徒 3回 保護者・教員 5回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部「12歳のチャレンジ」、中学部「職場体験」の取組について、下学年児童生徒に対して報告する機会を設定した。事業所や施設で行った仕事や作業活動等について振り返ったことを、画像等の発表資料をもとに教師と一緒に報告した。</li> <li>高等部、中学部の就労を希望する生徒及び保護者、担当教員に対して、就労継続支援事業所職員から就労に必要な力等について話を聞く学習会を開催した。生徒たちは学習会後、各自の感想等を発表し合って学びを深めた。</li> <li>保護者と教員を対象に、施設職員から障害福祉サービスの現状について話を聞く進路学習会を行った。その内容を進路だよりに掲載した。1月にも「障害者の社会参加」について話を聞く第2回進路学習会を予定している。</li> <li>教員を対象に、第1回進路学習会のビデオ視聴や本校の進路指導、キャリア教育や障害福祉サービスについて等、学習会を3回にわたって行った。その他、希望者に生活介護事業所や入所施設の見学を行った。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する学習会等を目標とする回数以上実施した。</li> <li>児童生徒は、報告会や学習会に意欲的に参加し、発表を通して自信をもったり、新たな課題を見つけたりできた。</li> <li>教員や保護者は、学習会を通して障害福祉サービスの理解を深め、児童生徒の卒業後の姿をイメージし、それらを担任と共有して日頃の指導・支援につなぐことができた。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒本人の強みを伸ばす取組をし、卒業後の進路選択に活かすことが大事である。</li> <li>段階ごとに行う指導や支援を保護者としっかり共有し、保護者が子どもの将来の姿をイメージできることが適切な進路選択につながる。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員や保護者に向けて、障害者福祉サービスや各施設・事業所についての情報をより早く分かりやすく提供するための工夫が必要である。</li> <li>重度重複障害のある児童生徒のキャリア教育の視点に立った教育活動の充実のために、教員がよりキャリア教育についての理解を深め、家庭と連携して取り組んでいきたい。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)